

# 令和6年度県北地区読書支援者育成事業研修会



令和6年7月7日（日）福島県自治会館において、子どもの読書活動推進に向けて活動する方々の専門的な知識や技術の向上を目的として、標記研修会を開催しました。



## 震災語り部による講話

### 「震災の記憶と教訓を次の世代へ」 相馬市観光協会 五十嵐ひで子氏

講話では、当時の津波の映像を全員で視聴した後、自身も津波に飲み込まれながら奇跡的に一命を取り留めた五十嵐さんの経験を語っていただきました。

「逃げっぺ」と言えなかったことへの後悔や、自分の命は自分で守ること、「もしかしたら災害が起きるかもしれない」と常に意識してほしいこと等、迫力ある五十嵐さんの語りに、大きく頷く参加者の姿がたくさん見られました。



#### <参加者の声>

- 五十嵐さんの実体験のお話はとても心に響きました。子どもたちに伝えていくことが大切だと感じました。
- 震災語り部の方の講話は暗いお話が多いと思っておりましたが、五十嵐さんの講話は事実が明確でありながら未来へ希望をもつことができるお話でした。

五十嵐さんが所属する「相馬市観光協会」では、「相馬市復興視察ガイドツアー」（一般向け）や、「そうまで学ぶ震災・教育旅行」（学生向け）など、地元の方々から直接学んだり、体験したりすることのできる事業を行っています。

3月11日に近い読み聞かせの場で震災関連書籍を取り上げることで、子どもたちが震災について知る、考えるきっかけとすることができます。震災の記憶と教訓を次の世代へつなげるために一緒に取り組んでいきましょう！



相馬市観光協会ホームページより <https://soma-kanko.jp/>



# 「子どもと絵本をむすぶ読み聞かせのコツ！」

南相馬市立中央図書館 佐藤 真紀

講義では読み聞かせをすることの意味や、絵本を選ぶポイント、読むときのポイントについて実際に絵本を使って分かりやすくお話をさせていただきました。また、演習では、新聞紙を使ったお話の仕方を紹介させていただきました。

## 読み聞かせすることの意味

### 言葉

言葉をシャワーのように浴びさせることができる。

### 感動

自分の実体験以外でも感情を呼び起こすことができる。

### 愛情

自分に肉声やまなざしが向けられる喜びを実感できる。

本を通じて、人から人へ  
愛情を伝える



## 絵本を選ぶポイント（一部）

- ・具体的で分かりやすいテーマ、ストーリー  
『おおきなかぶ』…ページをめくってもかぶをひっぱる向きが同じ
- ・絵を見ただけでストーリーが理解できる  
『こすずめのぼうけん』…最初に絵だけを見て内容が分かるか
- ・絵が魅力的…タイプの違ういろいろな絵を子どもに見せる
- ・絵に対する文章量がちょうどよい
- ・絵と文の内容が一致している  
『マーシャとくま』…名作だが、絵と文が合っていないので、語りにおいている
- ・声に出した時に心地よい日本語のリズム
- ・出来事や言葉が繰り返され、擬音語が活かされている  
『いないいないばあ』、『もこもこもこ』

## 読むときのポイント

- ①絵をできるだけ隠さない
- ②しっかり・ゆっくり・はっきり
- ③表紙から裏表紙まで見せる
- ④間をしっかり取る
- ⑤自然な読み方で



## <参加者の声>

- 絵本の読み聞かせ活動に興味があり、技法や知識を得られてよかったです。また、こういう機会があれば参加したいです。
- 絵本の読み聞かせのコツを学ぶことができたことを嬉しく思います。具体的な資料を頂いたので、勉強になりました。これからの読み聞かせの活動に本日の研修を役立てたいと思います。



読書活動に関するお問い合わせは県北教育事務所総務社会教育課 伊藤まで  
(電話 024-521-2814 E-mail itou\_emi\_02@pref.fukushima.lg.jp)